根室市

□　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
■　教育支援センターの機能充実に向けた取組

関係機関との連携による支援の充実

《概要》

○　当該生徒は、中学校進学後にＳＮＳが原因で友人とトラブルになり不登校となった。学校・家庭・関係機関が情報を共有し、共通認識のもと連携・協力を図りながら、当該生徒及び保護者への丁寧な支援を継続することにより、登校状況の改善へと繋がった。

○　教育支援センターでは、他の児童生徒や指導員と交流する機会を積極的に設け、コミュニケーションや学習活動、レクリェーション等を通じて良好な人間関係づくりを行う機会を設定した。

○　教育支援センターでは、ＩＣＴ機器（タブレット）を活用したオンラインによる双方向の学習支援や教育相談を行い、教育の機会の確保と学習意欲の向上に努めた。

《相談・支援等の実際》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　学校や関係機関が連携した生徒への支援	・学校や教育支援センター、福祉課相談室、保健所などの関係機関が日常的に当該生徒の様子や家庭との連携状況についての情報を共有することにより、当該生徒及び保護者への支援の充実を図った。
○　良好な人間関係づくりの機会及び居場所の確保	・教育支援センターに通室している、他の児童生徒や指導員と交流する機会を積極的に設け、他の児童生徒と関わるためのスキルを身に付け、よりよい人間関係づくりを行う機会を設定するとともに、自身のペースに合わせた通室を促した。 ・衝立で空間を区切ることにより、通室する児童生徒が気持ちを落ち着ける個室を用意している。
○　ＩＣＴを活用した個に応じた学習支援及び教育相談	・教育支援センターの Wi-Fi 環境やＩＣＴ機器を活用して、学校の教員や教育支援センターの指導員との同時双方向型のオンラインによる学習サポート、教育相談や保護者面談の実施など、当該生徒や保護者と学校・関係機関が連携を深めながら効果的な支援を行った。

《取組の成果》

○　学校や教育支援センター、福祉課相談室、保健所などの関係機関が連携し、当該生徒及び保護者への支援を一層充実したことにより、当該生徒の学校復帰へと繋げることができた。

○　他の児童生徒や指導員が協力しながらイベントを企画、実施して交流する機会を積極的に設けたことにより、当該生徒は人と関わる楽しさを感じ、進んで関わろうとする意欲の向上へと繋がった。

○　学校及び教育支援センターにおいて、ＩＣＴ機器を活用した支援を行ったことにより、学習内容の定着や学習意欲の向上を図ることができた。

別海町

□　学校復帰に向けた支援
□　学習機会確保の取組
■　教育支援センターの機能充実に向けた取組

安心できる居場所づくりと興味ある活動への支援

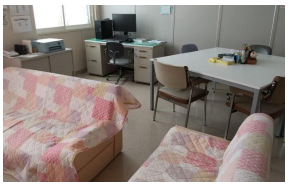
《 概 要 》

○　本町は、東西南北に広がる広大な地域であり、中央地区にある教育支援センター「ふれあいる一む」のほか、西部地区に「ふれあいる一むサテライト」を開設し、不登校児童生徒への支援の充実を図った。

○　児童生徒が不安や悩みを相談できる人間関係づくりや安心して過ごせる居場所づくりに努めた。

○　ＩＣＴ支援員が指導員に加わり、プログラミング体験をはじめ、児童生徒の興味・関心を高める活動ができるように環境を整備した。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　居場所及び交流の機会の確保	・児童生徒にとって、ほっと、安心できる場所であり、学びや生活を支える第３の場所となるよう心がけ、好きな場所で活動できるよう配置を工夫した。 ・好きなこと、得意なことに取り組み、自己肯定感を高める場になるように、他の児童生徒と共にレクリエーションやゲームなどを行うなど、よりよい人間関係づくりを図る交流の機会を確保した。  【活動環境の整備】
○　ＩＣＴを活用した個に応じた学習支援及び教育相談	・パソコン・タブレット、学習教材用ゲーム、イラスト作成用ソフトなどのＩＣＴ機器を積極的に取り入れ、児童生徒が好きな活動ができる環境を整備した。 ・ＩＣＴ支援員の支援により、プログラミング体験等、児童生徒の興味・関心に応じた学習を行った。 【ＩＣＴの活用】

《 取組の成果 》

○　児童生徒の気持ちや意向を尊重し、保護者と連携を図った上で声かけなどの支援をしたことにより、継続して通室するとともに、学校へ登校できる日が増加した生徒がいた。

○　タブレットやイラスト作成ソフトを設置したことにより、絵を描くことが好きな児童生徒の通室が増え、楽しく活動するとともに、将来の自己の在り方について考える機会になった。

○　プログラミング体験やドローン操作の体験など、他の児童生徒と一緒に活動することにより、児童生徒がお互いを認め合い、励まし合う姿が見られた。

中標津町

■　学校復帰に向けた支援
■　学習機会確保の取組
□　教育支援センターの機能充実に向けた取組

関係機関との連携と学校復帰に向けた学習支援

《 概 要 》

○　本町において、不登校あるいは不登校傾向のある児童生徒の割合は中学生が最も高いという実態を踏まえ、各学校、子育て支援課、教育委員会と連携し、教育環境の支援を展開した。
○　学校や関係機関と連携し、児童生徒が自分を振り返る、基本的な生活習慣を改善する、基礎学力を身に付けるなど、自立を支援し社会に適応できる児童生徒を育てることを目標とした。
○　児童生徒の実態に応じて弾力的な支援の計画を立て、スポーツや読書などの自由活動、栽培などの体験活動、個別の教科学習や相談などの学習活動に取り組んだ。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
○　教育委員会を中心とした関係機関の連携	・教育委員会は不登校及び不登校傾向のある児童生徒の情報について、各学校から「不登校解消対策個票」の提出を求め、教育相談センター、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関や学校と情報を共有し、児童生徒の状況に応じて個別の支援を行った。
○　児童生徒への学習支援、教育相談	・教育相談センターに通級している児童生徒の不登校の主な要因の一つは「学業の不振」であることから、児童生徒一人一人のニーズに沿った支援方法を検討し、個別の学習支援を行った。 ・児童生徒の心身の安定しない状況について、保護者から電話や来所による相談を受け、話合いを通して親子の支援を行った。
○　通級を通した生活習慣の改善	・教育相談センターに通級し、スポーツや体験活動等で体を動かしたり、個別学習を行ったりすることを通じて、人と関わる機会を増やし、生活習慣の改善に繋げた。

【活動環境の整備】

《 取組の成果 》

○　児童生徒一人一人のニーズに合わせた個別の学習を行うことにより、学習内容の理解が深まり、学習意欲が増すとともに、自己肯定感が高まり、学校復帰へと繋げることができた。
○　教育相談センターに通級し、スポーツや体験活動等で体を動かすことにより、生活習慣の改善を図ることができた。
○　児童生徒の中には、教育相談センターへの通級を通して家庭だけだった生活範囲が広がり、人と関わる機会が増えたことにより、学校復帰に繋がるケースがあった。